



TPM Re'START!



愛知製鋼における

2025年 12月 19日(金)

愛知製鋼株式会社 本社

講演会・工場見学会

TPM®再始動による強い現場づくり

“専門保全のチカラ”を融合した“これからの自主保全”をめざして

※「TPM」は、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会の登録商標です

10:00 開会 (9:30～ 開場)

基調講演



愛知製鋼における TPM再始動による強い現場づくり

“専門保全のチカラ”を融合した“これからの自主保全”をめざして

経営役員

モノづくり革新本部 本部長

木原 一馬 氏

事例紹介講演



愛知製鋼における「専門保全」ならびに「自主保全」の取組みについて
具体的な事例を紹介します

愛知製鋼における「自主保全」の取組み

モノづくり革新本部

設備技術部 TPM推進室 室長

久野 洋一 氏

※「専門保全」の取組みは、基調講演につづき 木原 一馬氏 にご講演いただきます

工場見学会

愛知製鋼を支える強い現場

- ◆ TPMを基盤とする地道な現場づくり
- ◆ 製造と保全が寄り添う“自律性と技術力”向上
と人と設備の“サステナビリティ現場”



愛知製鋼株式会社 知多工場

ディスカッション

講演者と参加者との質疑応答・ディスカッション

16:30ごろ 閉会予定※ プログラム・時間は、現時点の予定です。変更の際は、公式サイトなどでご案内いたします

講演・工場見学会
プログラム



公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
Japan Institute of Plant Maintenance

普及推進部 TEL : 0120-451-466 (または03-6865-6081) E-mail : EVENT@jipm.or.jp



愛知製鋼における
TPM®再始動による強い現場づくりの詳細情報は、

<<https://info-jipm.jp/f/tpmrestart/>>





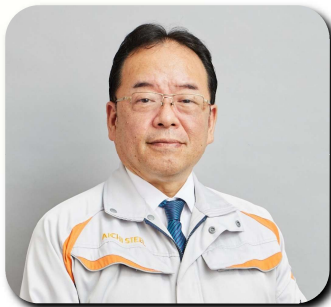
愛知製鋼における TPM Re'START! TPM®再始動による強い現場づくり

“専門保全のチカラ”を融合した“これからの自主保全”をめざして

基調講演

愛知製鋼におけるTPM再始動による強い現場づくり

“専門保全のチカラ”を融合した“これからの自主保全”をめざして



愛知製鋼株式会社
経営役員 モノづくり革新本部
本部長

木原 一馬 氏

モノづくりの底力向上と稼ぐ力強化を目指し、TPM、TPS、TQMを駆使した仕事の価値向上を図ってきました。全員参加の保全体制構築、TPM活動の取り組みの変遷、自主保全レベルの向上への取り組み（資格取得者の増員）などから、これまでの成果、今後の目指す姿について紹介します。

経歴

1986年	愛知製鋼株式会社 入社
2013年	愛知製鋼株式会社 生技本部設備技術部長
2017年	愛知製鋼株式会社 モノづくり推進本部設備技術部長
2021年	愛知製鋼株式会社 モノづくり革新本部設備技術オフィサー
2024年	愛知製鋼株式会社 経営役員 モノづくり革新本部 本部長

講演者情報・講演概要

事例紹介講演

※「専門保全」の取組みは、基調講演につづき 木原 一馬氏 にご講演いただきます

愛知製鋼における「自主保全」の取組み



愛知製鋼株式会社
モノづくり革新本部 設備技術部
TPM推進室 室長

久野 洋一 氏

愛知製鋼では、製造と保全がともに協働する“寄り添い活動”を推進し、“自律性と技術力”向上するとともに人と設備にやさしい“サステナビリティ現場”を目指しています。このパートでは、製造側に専門保全の力を融合した「自主保全」の取り組みを主体に紹介します。

これまでの歩み

- 1982年、愛知製鋼株式会社に入社。2008年に製造本部設備技術部機械設備室第5保全係 係長、2010年に生技・製造本部設備技術部工務室 安全・人事・原価グループ 担当員、2014年 生技本部設備技術部動力・ユーティリティ設備課 副課長を経て、2020年にモノづくり革新本部 設備技術部TPM推進グループ グループ長（次長昇格）に就任。
- 2023年、モノづくり革新本部 設備技術部TPM推進室 室長に就任し、現在に至る。
- 入社以降、現場で活躍している方に寄り添いながら、現場目線で歩み続ける。

愛知製鋼株式会社 知多工場

（愛知県東海市荒尾町ワノ割1番地）

愛知製鋼を支える強い現場

◆ TPMを基盤とする
地道な現場づくり

◆ 製造と保全が寄り添う“自律性と技術力”向上
と人と設備の“サステナビリティ現場”

工場見学

生産開始	1943年(昭和18年)5月
事業内容	トヨタグループの 素材供給を担う重要拠点 ・ 鋼片・鋼材の精整作業 ・ 特殊鋼丸棒の加工 ・ 特殊鋼平鋼の矯正・切削・切断など
生産品目	特殊鋼条鋼、ステンレス鋼、鍛造品、電子部品
TPM 優秀賞 受賞実績	・ 1980年『PM優秀事業場賞』受賞 ・ 1992年『PM特別賞』受賞 ※ PMの名称は、TPMの前名称



トヨタグループ唯一の素材メーカー





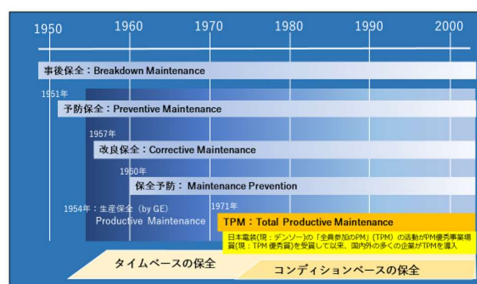
<<https://info-jipm.jp/f/tpmrestart/>>

TPMのご紹介

TPMとは？

TPM (Total Productive Maintenance) とは、製造工場および設備におけるロスをゼロにすることを目的とした、主に自動化ラインを中心とした製造業やプラント産業における設備管理と生産性維持のためのマネジメントシステムです。「総合的生産保全」や「全員参加の生産保全」と呼ばれています。

全社を巻き込んで取り組むTPMは、単なる保全活動を超え、経営戦略として収益性向上とリスク低減を同時に実現します。



TPMの特徴は、生産システム効率化の極限追求(総合的効率化)をする企業の体質づくりを目指し、生産システムのライフサイクルを対象とし、“災害ゼロ・不良ゼロ・故障ゼロ”などあらゆるロスを未然防止する仕組みを現場現物で構築する点です。

また、生産部門をはじめ、開発、営業、管理などの全部門にわたって、トップから第一線従業員に至るまで全員が参加し、重複小集団活動によって、ロス・ゼロを達成することが特徴です。

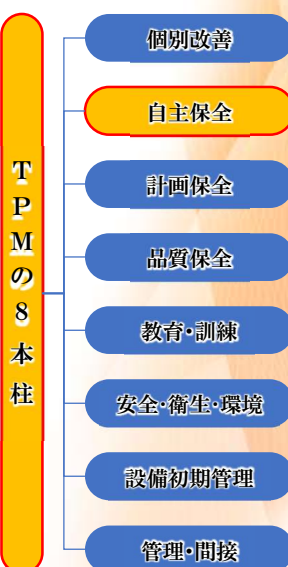
TPMの8本柱の一つ～自主保全～

TPMの取り組みは、“8本柱”で構成されています。8本柱の一つである“自主保全”は、TPMの活動のなかで最も基本的かつ特徴的な活動として位置づけられています。

オペレーターが日常的な清掃・点検・給油・締付けを通じて設備を「標準状態」に維持し、異常兆候を早期に発見することで、全社の保全部門や改善活動を支える基盤を構築します。

この基盤が整うことで、計画保全や予知保全による高度な保全活動、設備管理・品質保全・改善サイクルの実践が可能になります。

自主保全の定着なくしてはTPMの「故障ゼロ」「稼働率向上」「ムダ排除」という理念は達成できません。



○ 自主保全がもたらす主な効果

- ・ 計画外停止の大幅削減
- ・ 設備状態の可視化と情報共有
- ・ オペレーターの保全意識・技能向上
- ・ 維持コスト低減と設備寿命延長

経営視点で見るTPMの効果

- 自主保全活動やロスの構造分析により、設備停止によるロスコストを削減し、稼働時間を最大化させます。キャッシュフロー改善に直結します。
- 人財活用と組織強化により、製造現場のオペレーターによる自主保全によって、技能継承とエンゲージメント向上を両立。離職率低減にも効果を発揮します。
- 予兆保全、リスクマネジメントを組み込むことで想定外の設備停止を抑止し、納期遅延やそれによる損害発生を回避します。
- デジタル化との親和性があり、IoTやセンシング機器との連携によりデータドリブンな設備管理を実現。スマートファクトリーの実現などIndustry 4.0戦略の基盤としても活用可能です。

TPMは単なる保全改善ではなく、経営戦略そのものです。

特に製造業が直面する人手不足、グローバル競争、デジタル変革のについて、持続可能な成長を後押しします。

上記の社会課題を背景として、近年、TPMの効果が改めて評価され、TPMを再始動する企業が増加しています。

サークル単位、部署単位で自主保全活動を主体としたTPMの活動においてもその効果は得られますが、全社を巻き込んで、経営戦略として取り組むことにより、TPMの効果をより大きく実現することが可能です。

世界に認められるTPM

JIPMがTPMで優れた成果をあげた企業や工場を表彰するTPM優秀賞。これまでに、世界の60近い国と地域で、およそ4,000事業場が受賞しています。

TPMは世界的にも多くの企業に取り入れられており、この広がりを受け、日本産業規格(JIS Z8141:2001)において定義され、国際規格であるIATF16949:2016でも、TPMをシステムとして構築することが要求されています。

※ IATF16949とは、自動車産業の国際的な品質マネジメントシステム規格。国際自動車産業特別委員会(IATF)が作成したものであり、ISO9001:2015への追加事項の位置づけで、ISO9001と共に利用する必要があります

また、TPMを正しく促進し、広めるための認定資格制度である、“TPMスペシャリスト”があります。TPMコンサルタント、社内推進担当者、通訳者などが対象となり、認定を受けることで、TPMに関する知識と指導実績が証明され、信頼性や地位向上に繋がります。

さらに、認定クラスが分かれており、TPMに関しての知識や指導実績により、ブロンズ(Class C)、シルバー(Class B)、ゴールド(Class A)、プラチナ(Class S)の4クラスに区分されています。

2025年時点で、全世界で70名強の認定者がいます。



近年、設備の老朽化と多様化、グローバル競争の激化、そして、DX・サステナビリティ対応の重要性が高まるなかで、TPM (Total productive Maintenance) が製造業の基盤強化の手段として再注目されています。

TPMを取り組む先進企業の事例から、TPMの本質と最新動向、成果の講演に加え、工場見学による事例を交えながら、“現場力”を高める実践的アプローチをご紹介します。

今回の企画は、愛知製鋼株式会社におけるTPMの取組みに焦点を当てます。愛知製鋼株式会社では、TPM活動を積極的に導入し、1980～1990年代にかけて各種の「TPM優秀

賞」を受賞した実績があります。2020年からは改めてTPM活動を再キックオフし、活動を維持・推進する取り組みをされています。

- TPM活動を再キックオフした背景・目的は何か？
- TPM活動の成果はあったのか？

講演・工場見学のほか、質疑応答、意見交換など、講演者と参加者の交流時間を設け、これからのモノづくりを参加者みなで考える企画となっています。

◆お申込み方法

お申込みは、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会ホームページ内イベントサイトよりお申込みください

<https://info-jipm.jp/f/tpmrestart/>



お申込みは、**2025年11月21日(金)** 締め切り

- ※ ただし、お申込み多数の場合は、締め切らせていただきますので、お早目のお申込みをお願いいたします
- ※ 受入審査がありますのでお早めにお申込みをお願いします(審査後に、参加可否を改めてご連絡します)

- お申込み窓口ご担当者、および参加者が「参加申込み規定」に同意したうえで、上記WEBサイトよりお申込みください。
※ FAXでのお申込みはできません
- お申込みの際は、お申込みWEBサイトに記載の注意事項の内容をよくご確認のうえお申込みください
- 開催日2週間前より、お申込み窓口ご担当者あてに請求書を送付(メール)いたします。2025年12月末日までに、請求書に記載の銀行口座にお振込みください。なお、振込に関わる手数料は貴社にてご負担ください
- キャンセル規定
開催当日～7日前の参加取消し：参加料全額
※ 2025年12月12日(金)よりキャンセル不可となります
※ キャンセル・変更は、以下URLよりお願いいたします。
<<https://info-jipm.jp/contact/>>
お問い合わせ> イベント申込み後のお問い合わせ

◆参加料(税込み)

会員価格※	¥38,500-/名
一般価格	¥49,500-/名

会員以外の方は、
この機会にぜひ当会会員へのご入会をご検討ください

- 参加料には、昼食・テキスト(資料)代が含まれています
- ※) 会員価格の適用には、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会(正会員・事業所会員)、もしくは一般社団法人日本能率協会(法人会員・協賛団体会員)の会員であることが必要です

会員ご入会の有無は、下記WEBサイトにてご確認ください

- 公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
<<https://www.jipm.or.jp/company/memberlist/>>
- 一般社団法人 日本能率協会
<<https://list.jma-member.com/>>

- 個人情報に関する取り扱いについて
ご記入いただいた個人情報は、当イベントの運営・管理・資料送付、出欠の確認等に利用いたします。また、後日、当会より事業・サービス・セミナー等のご案内を送付させていただく場合がございます。当会は、ご提供いただいた個人情報を当会のプライバシーポリシーに則って安全対策を施し適切に管理いたします。当会のプライバシーポリシー、個人情報の開示・訂正・削除等の詳細につきましては、当会ホームページ(<https://www.jipm.or.jp/>)をご覧ください
- 免責事項
天災地変や伝染病の流行、大会会場・輸送等の機関のサービスの停止、官公庁の指示等の当会が管理できない事由により大会内容の一部変更および中止のために生じたお客様の損害については、当会ではその責任を負いかねます

